

出身高校名 甲府第一

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は食の音から興味があり、栄養学と大学で学ぶことに決めました。また、大阪出身のために関西の大学に行きたいと思っていたところ家族に薦められ同志社女子大学に決めました。将来、食品会社に就職したいのと専攻が2つに分かれていることも魅力のひとつです。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

私は高校では大系選択だったため、受験科目である4単位の生物や化学を履修していませんでした。そのため、夏の休学期間を生物と学びました。この時点では、まだ受験に決まらずに本勝負に入っていない状態でした。しかし、このままでは遅れちゃうという気持ちから始め、推薦入試の点数が伸びる語学平均値は大切だと思うので、学校の定期試験に力を入れました。

[夏休み]

休学期間を1週、まとめノートを作成しました。生物のワークは何回も解き、苦手分野を知り、克服しました。また、2年生の頃から集めておいた9科目模試(生物)を解き、問題は出題形式に慣れました。夏休み中に生物の知識を定着させようと思っていたため、夏休みは7割くらい生物に時間を費やしました。英語は、文法を中心にワークと問題演習をしました。生活の面では、1日のルーティンのスケジュールを毎日同じルーティンで身につけました。

[2学期～入試直前]

夏休み明けからは、過去問を中心に勉強しました。全科目で5年分解いたのと同じく、この英語の難しいと実感しました。問題はノートに書き、長文を日本語訳に直し、文法や語彙のポイントをまとめました。私は本来自ら単語力に自信があるので、単語中長文から覚えました。また、文法書を使って問題集に分野別で演習しました。一方、生物は、過去問と平行して毎月、先生が補習授業を行うので行いました。そこで、問題は疑点・不明点、基礎の曖昧な部分は音読と音読で理解できるようにしました。学校では朝の7:30から、放課後の18:00まで毎日勉強するようにしていました。土日でも朝8:00からスタートし食事以外は学習に身をつらねていたと思います。入試に近づくにつれて、問題演習は丁寧、ノートの補足をし、入試当日に見るノートを作成しました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は、勉強と休みのメリハリをつけることでストレスをためないよう心がけていました。同級生の中には、お昼休み自習室に行きながら勉強していたのと同じく、私は行かずには休んでいました。そのかわり、1日の休み時間は必ず単語帳や文法書と問題集を勉強しました。また、生活の面では、学習は22:30終了、24:00までには寝るというルーティンで過ごしていました。車通という言い方はなかったのですが、睡眠時間としっかり確保することはとても大切だと思いました。ルーティンを守るためにテレビやスマートフォンを離れさせていました。スマートフォンの中でよく使ってしまうアプリは消去して強制力から離れることができました。勉強が辛く感じた時は、おこげキャンパスの時、月曜日の写真を見返し、「4月にまたこの写真を見ようぞ!」という思いで自分を奮い立たせました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験は冬休みから見ると不安だと思ってしまう。でも、ひたすらやり続けることが意味がある。その努力は必ず報われるはずだ。私は4単位の生物の模試は受けたことしかは独学だったの不安だ。でも、本番は「一人一歩ずつ長いから大丈夫」と自分に言い続けました。何事もあきらめず、自分に信じていることが大事だと思っています。合格おめでとう! 瞬間の喜びは人生の宝です。元気で下り!!